

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173501271		
法人名	医療法人社団 上田病院		
事業所名	グループホーム あいあい		
所在地	登別市美園町4丁目23-9		
自己評価作成日	平成23年10月10日	評価結果市町村受理日	平成23年12月2日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173501271&SCD=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

春はお花見、夏は町内会の方も参加してもらいバーベキューを行ったり、秋には壮瞥までぶどう狩りに行ったり、運動会を開催しています。6月から9月まで毎月1度母体の上田病院の大きなお風呂に入りに行っています。皆さん大きな浴槽に入りのんびりと過ごしています。毎月ボランティアグループの方や託児所の子供たちが来てくれて踊りなど披露してくれます。入居者さんも一緒に踊りに参加して楽しい時間を過ごしています。入居者さん全体のレクなどは身体的にできない人が増えてきて不可能になってきていますが、出来る方だけでラジオ体操を行ったり、歌番組のビデオを楽しんだりとゆったり楽しめる時間をとっています。洗濯物をベランダに干してもらったりたんだりとその人が出来ることをやってもらいながら手伝ってくれる中で身体機能の維持に繋がればと思っています。季節感を感じてもらえるように、壁に季節ごとの飾りつけなども行なって季節を感じてもらえるよう工夫しています。経営母体が病院であり緊急時の対応などもすぐ出来る事がなど入居者さんや家族の方からも安心していただけていると思っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成23年10月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域での生活の中で現在の機能を維持して安心して生活できるように、ケア理念を共有して、どのように実践につなげるか話し合っています。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、お祭りや町内会レクリエーションに参加している。また町内会の方が避難訓練、救命講習会、バーベキューなどに参加していただいております、交流を深めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行ない、町内会、婦人部、地域包括支援センター、消防署、市役所、利用者の家族の方にも参加していただき情報の共有・交換を行なっている。また市民に対して市内のグループホームを紹介するフォーラムに参加して認知症への理解を薦めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じて家族の方や地域の方々、他のサービスの現状などの報告や意見を頂きサービスの向上に生かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者が運営推進会議に参加していただき事業所の現況の報告、また、意見や助言を頂いている。毎月入所状況報告書などの提出を行なっている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置して職員にも理解を求めている。玄関の施錠は夜間のみ行なっている。身体拘束は行なっていない。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修などを通じて学ぶ機会を持ち虐待の防止に努めている。いわゆる「不適切なケア」に注意を払いお互いがチェックできるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や成年後見制度を必要とする方はいない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に書面をもって明示・説明を十分に行ない理解・納得していただけるようにしている。また入居時に利用者や家族の不安・疑問なことを尋ねて解決できるように話しをしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情があった場合は速やかに職員全員へ周知を行ない、検討して改善に努めている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出た意見はその都度施設長に伝えている。また職員の意見する場としてリーダー会議やユニット会議を実施して反映に繋げている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得のための研修への参加 各研修会や交流会を通じての他施設との交流 担当業務の割り当て 自己評価を行ない個人への面談 実績に応じた昇給 職員からの意見・相談による不安解消		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が参加できるような職員研修の実施 各研修会・講習会への参加		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各研修会やグループホーム広域連絡会での情報交換、包括支援センター主催の事例検討会、連絡会などの研修に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家族や紹介元からの情報収集、本人との面談を行ない本人や家族からの要望などを聞き本人の言動などを観察しながら安心して生活していただけるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階から家族との連絡を密に行ない、不安なことや要望など家族の思いを聞くようにしている。また信頼関係を構築できるよう何でも話ができる関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を十分に聞いて現在の状況に応じて他のサービスの利用も含めた情報を提供している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを感じて理解し、その人らしい生活ができるよう努めている。また同じ空間を過ごす者同士として日頃からコミュニケーションをとるようにしている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは情報を共有し、面会に来た時や電話での連絡を通じてコミュニケーションを多くとるようにし信頼関係を築いていけるように努力している。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者への面会、外出、外泊は自由に行なっています。一部のかたは昔からの近所の方や友人が直接面会に来られ楽しく過ごす時間があります。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士ソファや食卓テーブルを囲み会話やトランプなどを楽しんでいます。テレビが好きな人はテレビの前で集まって観たり、昔懐かしい歌のビデオを楽しんでいます。出来る限りリビングで過ごしてもらえるよう誘っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退居する場合、家族や受け入れ先の病院などと連携し情報を提供して本人・家族が安心して過ごせるよう配慮しています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の望む暮らし方を本人または家族から聞いて意向に沿うように努めています。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や紹介元からの情報、アセスメントでこれまでの生活歴、生活環境の把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりがその人らしく過ごせるようにプランを作成しプランに添ったケアを基本として行い、その時々での状況に応じた対応もとっています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族からの希望を聞きながら、一人ひとりに添った具体的な計画を作成しています。 職員全員で統一したケアが出来るよう心がけています。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づき、日々の様子やケアの実践を介護記録として個別に記入し職員全体で情報を共有しています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からその時々での状況での要望があった場合には対応する体制が出来ている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には町内会長、民生委員などに参加していただいています。ほかに毎月ボランティアグループの踊りの披露やピアノ演奏会、託児所の子供たちとの交流、町内会・消防署との連携による防災訓練を実施しています。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医からの情報収集を行ない本人や家族の希望に添うようにし継続した医療が受けられるよう支援しています。受診の際には本人・家族の希望に添った受診先に行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を確保しています。毎日介護職員からの報告や看護師が直接利用者の様子を確認して異常がある場合は医師に報告し指示を仰いでいます。また法人内の看護職員が訪問看護に来てくれています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合には介護添書を作成し情報を提供している。入院後も同じようなケアが受けられるように努めています。入院中には回復状況を確認し退院後の生活がスムーズに行なえるよう情報収集に努めています。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期について説明同意を行い後日「終末期の覚書」を家族、職員立会いの下作成しています。母体の病院とも共有して希望に添えるように配慮しています。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置のマニュアルを作成しています。また定期的に緊急時のシミュレーションを申し送りなどで行なっています。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施しています。新人職員が参加出来るよう配慮しています。地域では町内会の方にも参加していただいています。また震災を受けて地震や津波に対する意識が高まっています。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別ケアに配慮しています。言葉かけや本人のプライバシーを損なわないように配慮しています。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人の表情や言動を観察し思いが叶うようにしています。自己決定できない方もこまめに声かけし出来るだけ本人の思いを汲み取るようにしています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせています。自己決定できない方もいるため基本的な流れに沿ってケアを行なっています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は自分で選ぶことが出来る方は選んでもらっています。また好みで愛着の指輪や時計、化粧品をする方もいます。散髪は定期的に行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人に合った食事形態で提供していません。また職員から勧めると食べてない物でも食べてくれることがあります。調理は一緒に行なえる人はいませんが下膳やテーブル拭きなどお願いすると喜んでやってくれる人もいます。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分量を把握しその人の状態に合わせて提供しています。状況によりミキサー食やきざみ食、栄養補助食品の提供、トロミ剤を使用して提供しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、義歯洗浄、うがいなどその人に合わせて行なっています。自力で出来ない人が多いため介助することが多いです。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンを把握してトイレに誘導しています。トイレで気持ちよく排泄できるように支援しています。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の確認を行いその人に合わせて下剤や坐薬を使用しています。また食物繊維の多いものや乳製品、野菜ジュースを提供しています。		
45	17	入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人が希望する日に入浴できるように配慮しています。また入浴を嫌がってしまう人には改めての対応を行ない入ってもらっています。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やリビングで自由に休息できるようにしています。自分で意思決定が出来ない人はその人の状況に合わせて時間ごとに休息してもらっています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法・用量などは個別にファイルしてあります。薬は医師の指示にて服薬し、服薬時誤薬予防の為、名前、日付、時間を声を出して読み上げています。血圧など不安定な人は数回計測して変化が見られたときは医師の指示を受けています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合った楽しみなことや役割が出来るようにしています。カラオケやテレビ・ビデオ鑑賞、洗濯物のたたみなど行なっています。自己決定できない人には喜んでもらえそうなことをそれぞれ考えて行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	かかりつけ医の定期受診や介護度が上がった入居が多く全員参加は難しくなりましたが季節ごとのドライブ、夏場には大浴場へ毎月出かけています。また家族の協力のもと外出や外泊する人もいます。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分自身でお金を持っている方もいますが、ほとんどの人は自分では持っていません。また本人や家族から使用する日用品を頼まれることがありその時は代行しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話が設置されており希望があればいつでも対応しています。自分から電話をかける人はいませんが、職員から本人に代わって話をしている人もいます。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや浴室、廊下など広く、車椅子でも無理なく移動することが出来ます。リビングも広く日光が入りやすく風通しも良くその日の天候気温に合わせて対応しています。また、季節を感じるための出来る飾りなどをつけています。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに居室で過ごしたり、リビングに来て気の知れた人と一緒にテレビや新聞などを観て話しをしています。自己決定できない人はその時々で考えて同じ空間にいてもらい過ごしてもらうこともあります。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人や家族の方々と話してなじみの物が置けるように、なじみの服や小物が使えるようにしています。ほかに布団やタンス、位牌など置いている人もいて、本人が安心して過ごすことができるよう配慮しています。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の維持の為に体操やストレッチをその人に合わせ体調を見ながら行っています手すりに掴まり歩いている人や歩行が不安定な人には介助で歩行してもらいできる限り長く筋力維持が出来るように心がけています。		